



主な内容

- 2~3.....2016夏のイベント
- 4.....後期高齢者医療制度のお知らせ
- 5.....看護専門学校
- 6.....市の仕事に対するご意見募集
- 8.....8月の相談

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp



名張の夏の一大イベントである名張川納涼花火大会が今年も7月30日(土)に開催されます。この花火大会の前に行われるのが、新町区の「愛宕の火祭り」です。大正末期ごろから続いている火伏せ(火災を防ぐこと)の神事。火のついた松明を持ち町を練り歩き、樽太鼓の音が響く中、川を渡ると最初の花火が打ち上げられます。

今号では、愛宕の火祭りについて、新町区長の黒田光則さんにお話を伺いました。

花火開始の合図 愛宕の火祭り

花火が打ち上がる名張川新町河畔の新町橋近くに火伏せの神、愛宕神社があります。その神事「愛宕の火祭り」は、地区の私ら男たちがみこしと松明を持ち、新町区内の2カ所に別れ練り歩くところから始まります。途中で合流して新町橋と黒田橋を通り、対岸から川の中を渡ります。

神事の最大の見せ場 名張川の川渡り

川の底はぬめりがあって滑りやすく、松明を持って歩くのは、危険を伴います。そのため、靴に滑り止めの荒縄を巻いたり、当日の午前中に実際に川を渡ってみて、足の置き場や川の水の量を確かめたりしています。水の量が多過ぎるときなど、場合によっては川を渡ることを諦めることもあります。

地域の人たちが中心になって叩く愛宕樽太鼓の軽快な音に合わせ、

過去に祭りが途絶えた時期もありましたが、昭和48年から復活させました。また、毎年7月24日の愛宕神社の祭礼日が花火大会でしたが、花火大会実行委員会から土曜日開催の要請を受け、伝統を守りつつ、まちを活性化していきたいかなければならないと平成19年から

途絶えた祭りを復活 伝統を守る

川を渡るところは、松明の灯りが川に浮かび上がり、最大の見せ場になります。皆が無事に渡りきるまでは気が抜けません。

そして、川を渡ると花火が打ち上がります。今では、この愛宕の火祭りが名張川納涼花火大会の始まりの合図にもなっています。私たちは、その後、松明を神社に奉納して火祭りが終わります。

「7月24日以降の土曜日」の開催に同意しました。

昨年は、愛宕の火祭りが公益社団法人日本河川協会から河川功労者として表彰されました。川と共

に地域の伝統文化を守っていく取り組みが評価されたと思います。

伝統行事は時代とともに続けることが難しい面もあります。しかし伝統を守り、関われることは私たちの誇りでもあります。

多くの皆さんに、花火大会を盛り上げる、「愛宕の火祭り」もぜひ見ていただきたいですね。



新町区長 黒田 光則さん

2~3ページ夏のイベント



さあ 名張の夏が始まった